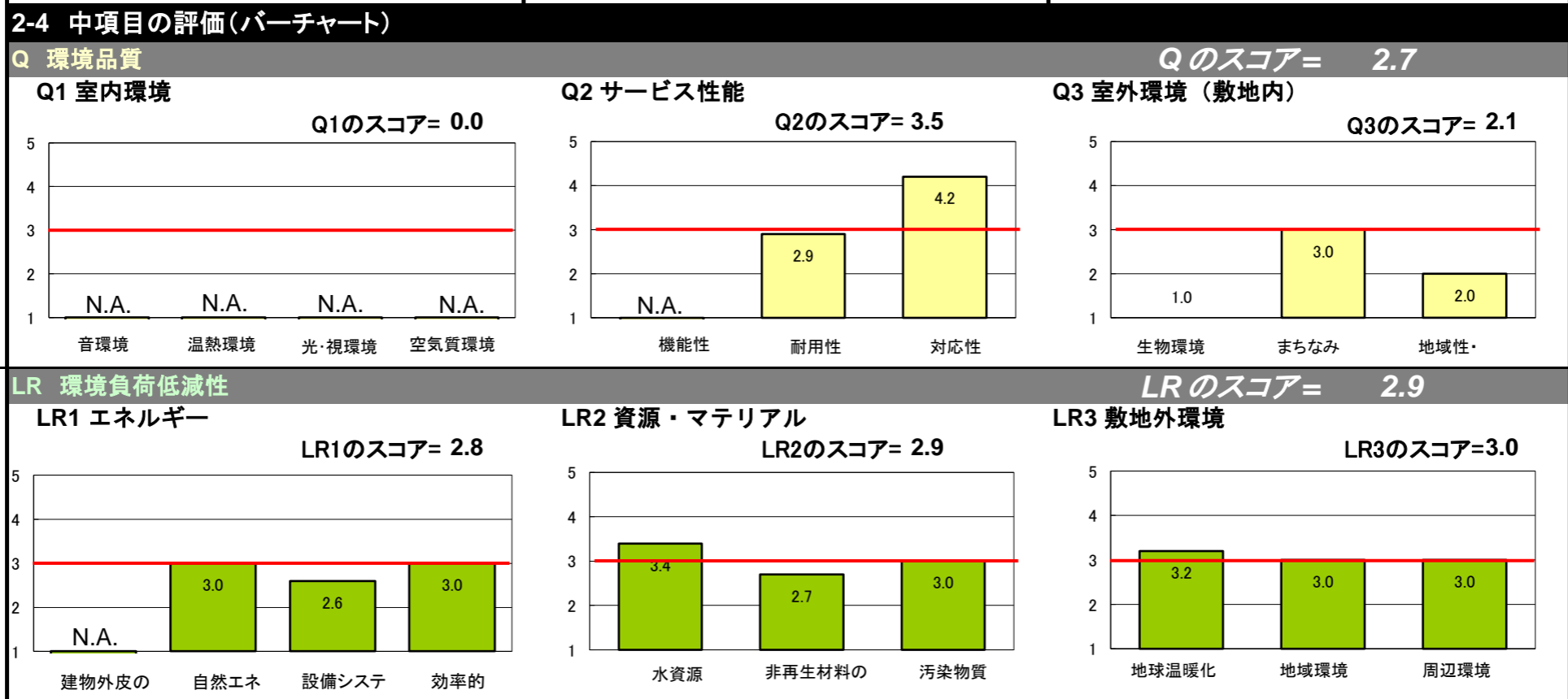
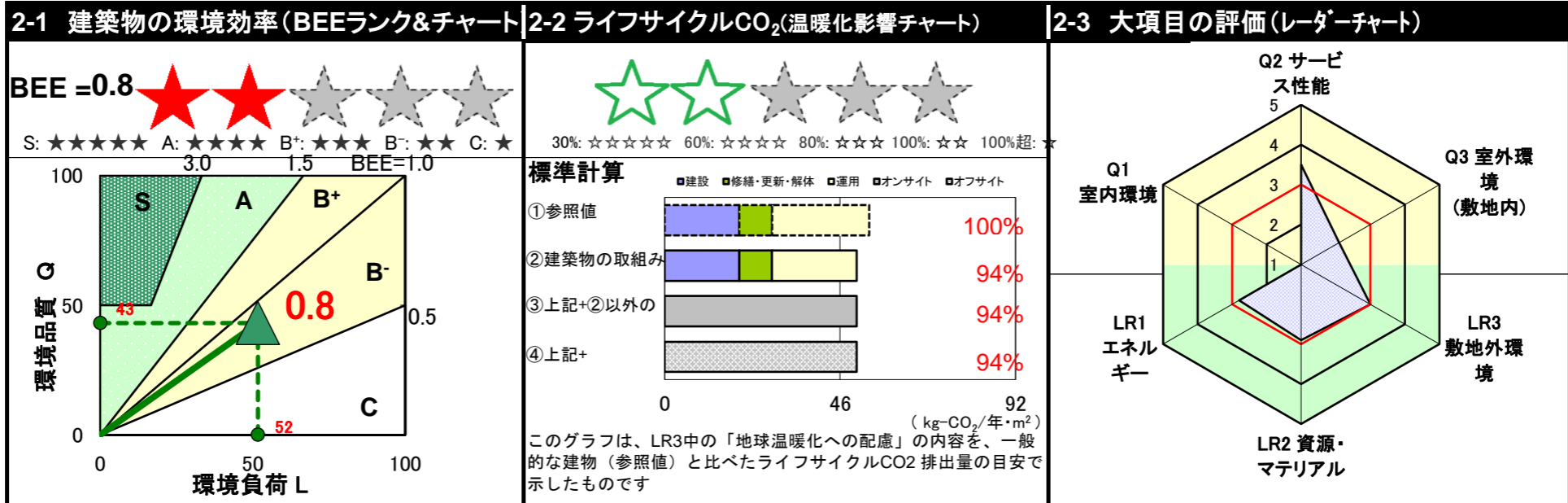
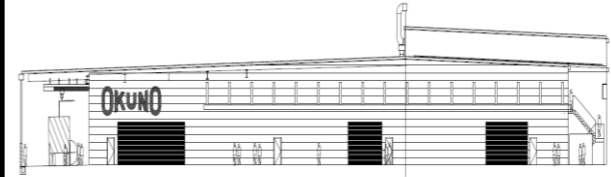


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	奥野工業株式会社 高浜工場	階数	地上2階
建設地	愛知県高浜市豊田町三丁目1番25	構造	S造
用途地域	工業専用地域・市街化区域	平均居住人員	135人
気候区分	6地域	年間使用時間	3,000時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年3月 予定	評価の実施日	2020年2月3日
敷地面積	20,613 m ²	作成者	小川 隆直
建築面積	12,218 m ²	確認日	2020年2月10日
延床面積	14,777 m ²	確認者	小川 隆直



3 重点項目					
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>3.2</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>39.6 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	39.6 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	39.6 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<p>②資源の有効活用</p> <p>3.2</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

$$\text{外構緑化指数} = \frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$$

$$\text{建物緑化指数} = \frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$$



スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						全体
配慮項目	独自基準	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体		
	重点項目								建物全体・共用	建物全体・共用部分
Q 建築物の環境品質									2.7	
Q1 室内環境									-	
1 音環境									-	
1.1 室内騒音レベル									3.0	
1.2 遮音									-	
1 開口部遮音性能									-	
2 界壁遮音性能									-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									-	
1.3 吸音									-	
2 温熱環境									-	
2.1 室温制御									-	
1 室温									3.0	
2 外皮性能									3.0	
3 ゾーン別制御性									3.0	
2.2 湿度制御									3.0	
2.3 空調方式									3.0	
3 光・視環境									-	
3.1 昼光利用									-	
1 昼光率									3.0	
2 方位別開口									-	
3 昼光利用設備									3.0	
3.2 グレア対策									-	
1 昼光制御									5.0	
3.3 照度									3.0	
3.4 照明制御									3.0	
4 空気質環境									-	
4.1 発生源対策									-	
1 化学汚染物質									3.0	
4.2 換気									-	
1 換気量									3.0	
2 自然換気性能									3.0	
3 取り入れ外気への配慮									3.0	
4.3 運用管理									-	
1 CO ₂ の監視									3.0	
2 喫煙の制御									3.0	
Q2 サービス性能									3.5	
1 機能性									-	
1.1 機能性・使いやすさ									-	
1 広さ・収納性									3.0	
2 高度情報通信設備対応									3.0	
3 バリアフリー計画									3.0	
1.2 心理性・快適性									-	
1 広さ感・景観 (天井高)									3.0	
2 リフレッシュスペース									3.0	
3 内装計画									3.0	
1.3 維持管理									-	
1 維持管理に配慮した設計									3.0	
2 維持管理用機能の確保									-	
2 耐用性・信頼性									2.9	
2.1 耐震・免震・制震・制振									0.5	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)									0.4	
2 免震・制震・制振性能									3.0	
2.2 部品・部材の耐用年数									0.52	
1 躯体材料の耐用年数									0.48	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔									3.0	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔									3.0	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔									0.20	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔									0.33	
6 主要設備機器の更新必要間隔									0.23	
2.4 信頼性									0.19	
1 空調・換気設備									0.1	
2 給排水・衛生設備									2.7	
3 電気設備									0.25	
4 機械・配管支持方法									0.25	
5 通信・情報設備									0.25	

② 主要用途上位2種にB以上を採用

3 対応性・更新性			0.4	4.2	0.48	-	-	-	4.2	
3.1 空間のゆとり			0.3	5.0	0.31	-	-	-		
1	階高のゆとり	②	1F=8.15m(1階製造室),2F=6.0753.5m(2階製造室)	5.0	0.60		3.0	-		
2	空間の形状・自由さ			3.0	5.0	0.40		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	5.0	0.31		3.0	-		
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38	-	-	-		
1	空調配管の更新性	②	2F=12000N/m2	3.0	0.19		-	-		
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.19		-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.13		-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	-	-		-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.25		-	-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.25		-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57		-	-	2.1	
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30		-	-	1.0	
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40		-	-	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.0	0.30		-	-	2.0	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50		-	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50		-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-		-	-	2.9	
LR1 エネルギー				-	0.40		-	-	2.8	
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	-	-		-	-	-	
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.28		-	-	3.0	
3 設備システムの高効率化			3.0	2.6	0.43		-	-	2.6	
4 効率的運用			0.2	3.0	0.29		-	-	3.0	
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00		-	-		
4.1	モニタリング		3.0	3.0	0.50		-	-		
4.2	運用管理体制		3.0	3.0	0.50		-	-		
集合住宅の評価			-	-	-		-	-		
4.1	モニタリング		-	3.0	-		-	-		
4.2	運用管理体制		-	-	-		-	-		
LR2 資源・マテリアル				-	0.30		-	-	2.9	
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15		-	-	3.4	
1.1 節水			3.0	4.0	0.40		-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60		-	-		
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.67		-	-		
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.33		-	-		
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	2.7	0.63		-	-	2.7	
2.1 材料使用量の削減			-	2.0	0.07		-	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.25		-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.21		-	-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	3.0	0.21		-	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	-	-		-	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	3.0	4.0	0.25		-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.0	0.22		-	-	3.0	
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32		-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.0	0.68		-	-		
1	消火剤		-	-	-		-	-		
2	発泡剤(断熱材等)		-	3.0	0.50		-	-		
3	冷媒		3.0	3.0	0.50		-	-		
LR3 敷地外環境				-	0.30		-	-	3.0	
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率:93%	3.2	0.33		-	-	3.2	
2 地域環境への配慮			0.3	3.0	0.33		-	-	3.0	
2.1 大気汚染防止			-	3.0	0.25		-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.50		-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.2	0.25		-	-		
1	雨水排水負荷低減	独自	-	3.0	0.25		-	-		
2	汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25		-	-		
3	交通負荷抑制	独自	十分な駐車スペース、十分な幅員の導入路を確保	5.0	0.25		-	-		
4	廃棄物処理負荷抑制		-	2.0	0.25		-	-		
3 周辺環境への配慮			0.3	3.0	0.33		-	-	3.0	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40		-	-		
1	騒音	独自	-	3.0	1.00		-	-		
2	振動	独自	-	-	-		-	-		
3	悪臭		-	-	-		-	-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40		-	-		
1	風害の抑制		-	3.0	0.70		-	-		
2	砂塵の抑制		-	3.0	-		-	-		
3	日照障害の抑制		-	3.0	0.30		-	-		
3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20		-	-		
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		-	3.0	0.70		-	-		
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30		-	-		

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策			3.2
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.2	0.10
② 資源の有効活用			3.2
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.22
Q2-3	対応性・更新性	4.2	0.21
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19
③ 敷地内の緑化			1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17
			外構緑化:39.6%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 奥野工業株式会社 高浜工

計画上の配慮事項	
総合	<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 将来的に他の用途に転用可能な空間の形状・自由さ、積載荷重のゆとりを備え、節水や再利用可能な部材を採用することにより省資源・省マテリアルを図っています。また、交通負荷抑制に取り組み、敷地外環境にも配慮しています</p>
Q1 室内環境	<p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 評価対象外です</p>
Q2 サービス性能	<p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空調、給排水配管に長寿命の材質を採用しています ・空間の形状、自由さが大きいプランとなっています ・積載荷重に余裕があります
Q3 室外環境(敷地内)	<p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 特にありません</p>
LR1 エネルギー	<p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 特にありません</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・節水型便器を採用しています ・躯体と内装仕上げが容易に分別可能です
LR3 敷地外環境	<p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・十分な駐車スペースと十分な幅員の導入路を確保しています
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>